

単身高齢者世帯への対応について

「家族のカタチの多様化が急速に進んでいる」

現状は、「日本型福祉社会」を前提に、
「呼べばすぐに駆けつけてくれる家族」がいることが大前提の制度設計

自分自身で正常な判断が出来なくなったとき、亡くなったときは、
自動的に**家族が意思決定の主役になる**仕組み

家族のカタチが多様化

- 未婚・子供なし
- 離婚
- 子供なし夫婦
- 事実婚・同性婚
- 家族はいるが疎遠・絶縁・頼りたくない・頼れない
- 家族はいるが迷惑を掛けたくない

判断力が低下した時・
病気の時・亡くなった時・
意思決定支援者・実行者が不在

「おひとりさま高齢者」
「身寄りなし高齢者」

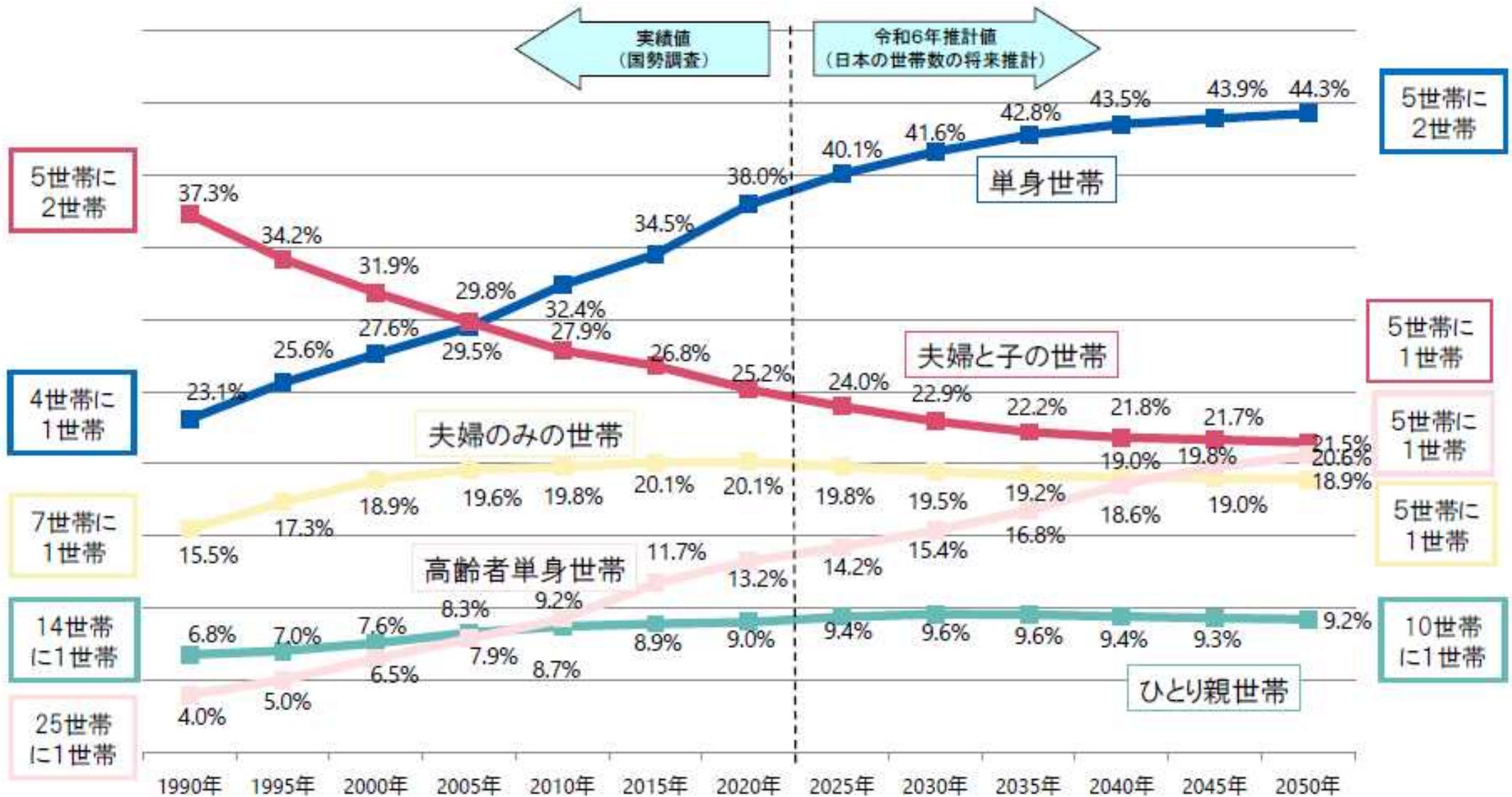
決して他人事ではなく
誰でも当事者になり得る



※ 重要な意思決定は、判断力低下時や病気の際に求められることが多い。

世帯構成の推移と見通し

単身世帯、単身高齢者世帯（表上は高齢者単身世帯）とも、今後とも増加が予想される。



(出典) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)(令和6年推計)」

【静岡県】世帯構成の見通し

単身高齢者世帯(表上は高齢者単身世帯)は全国と同様、5世帯に1世帯となる見通し



(出典)総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)(令和6年推計)」

単身高齢者（身寄りのない高齢者）に起こる様々な課題①

単身高齢者が最期を迎えるまでには、意思決定以外にも様々な課題が発生

<課題の例>

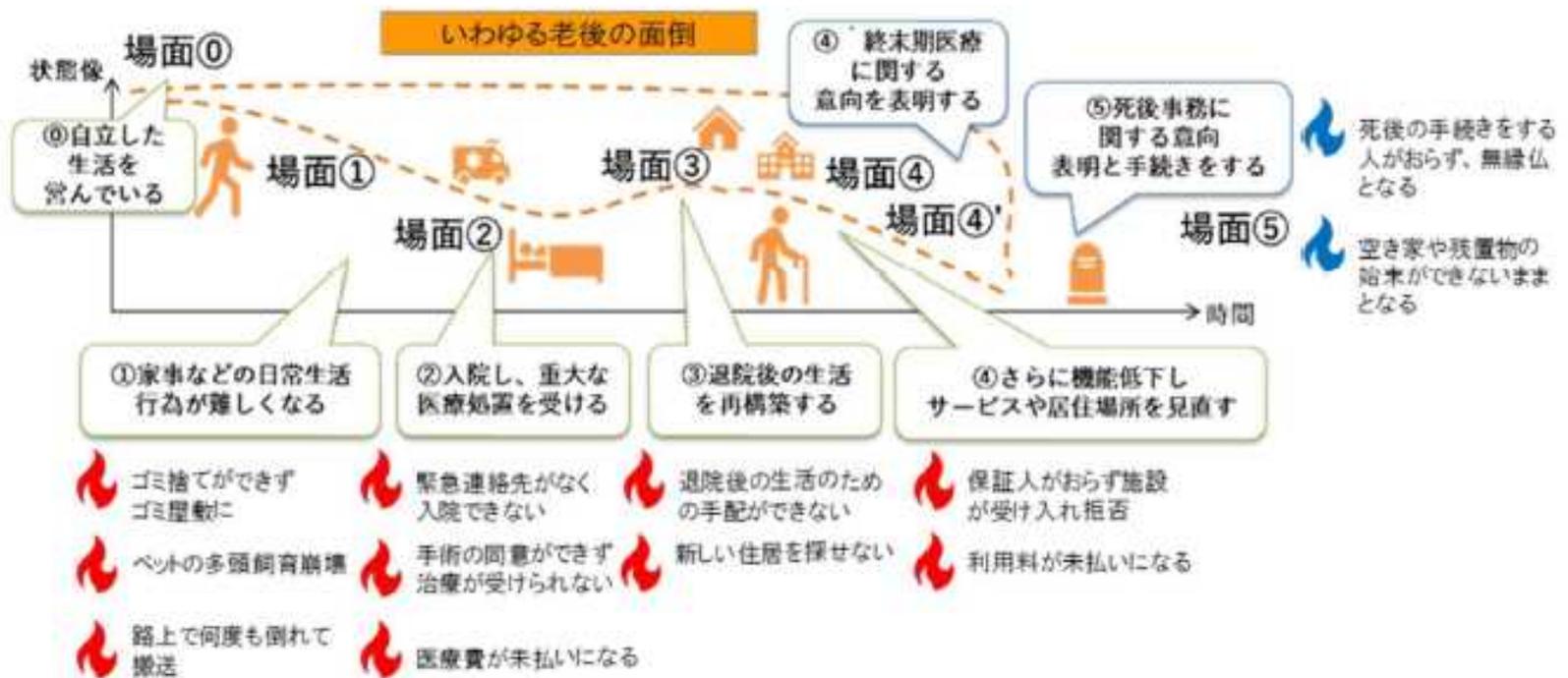
- 緊急連絡先がない・わからない
- 身元保証等を行う人がいない
- 日常的な金銭管理や各種手続き（入退院の手続き、入所手続きなど）を行う人がいない
- ケアマネジャーや成年後見人などがキーパーソン化してしまう（職務範囲を超えた支援の提供）
- 住居の問題（賃貸住宅に入居できない、持ち家の管理など）
- 遺骨の取扱い
- 遺留金品、財産の処分
- 親族の有無の確認

単身高齢者（身寄りのない高齢者）に起こる様々な課題②

○高齢期の問題解決の場面の例



○問題が解決しなかった場合に起こることの例



(出典) 令和5年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「身寄りのない高齢者の生活上の多様なニーズ・諸課題等の実態把握調査」より

県内の各市町の状況

ほぼすべての市町で対応に苦慮した事例あり(34／35市町)

例)入院・施設入所時の保証人対応、医療同意、葬祭対応、親族調査

<市町の取組例>

取組内容	市町数
地域ケア会議で検討	28
庁内の関係部署(福祉、住宅、消費者相談など)等による会議開催	19
管内(又は近隣)の単身高齢者世帯のサポートを行う事業者の把握	12
身元保証等が困難な場合、市営住宅(町営住宅)の入居時には、保証人を求めない	6

【その他の取組例】

- ・葬儀会社と協力して、火葬・納骨について生前契約
- ・終活支援を行う事業者の認証制度
- ・一人暮らし高齢者等実態調査、介護事業所・医療機関への実態調査

本日、御意見をいただきたいポイント

単身高齢者世帯の増加もあり、今後、様々な課題が一層顕在化してくると考えられるため、国においても「地域共生社会の在り方検討会議」等で検討が進められているところですが、現在、**県でも現状の整理や対策の検討等**を進めています。

検討等の参考とするため、
以下の点などについて、御教示願います。

- これまでに対応した具体的な事例
- それぞれの立場で感じている課題
- 把握している好事例